

「チャレンジする中小企業アシストする中小企業診断士」

診断かがわ

2009年 新年号 NO.52号

(平成21年1月9日発行)

[主要目次]

- ◆ 年頭の所感 1
- ◆ 日立ITソリューションフェア 2008 3
- ◆ 8/9 第2回支部研修 報告 4
- ◆ 8/30 理論政策更新研修 5
- ◆ 10/15 岡山・香川県支部合同研修会 報告 . 6
- ◆ 10/17 四国ブロック事務連絡会議 8
- ◆ 11/15 第3回支部研修 報告 9
- ◆ 11/21 無料経営相談会 10
- ◆ 11/22~24 経営コンサルタント養成講座 . . 11
- ◆ 会員だより 13
- ◆ 新入会員自己紹介 16



社団法人中小企業診断協会香川県支部

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402号

TEL 087-840-0370 FAX 087-840-0321

発行人 支部長 山下 益明

編集人 広報部 梅澤 秀樹

” ” 岩倉 正敏

年頭の所感



支部長 山下 益明

新年明けましておめでとうございます。平素は支部活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて昨年は世界的な金融危機の嵐が日本国内にも吹き荒れ、香川の地方経済へも今後ますます影響を及ぼしてくると予想されます。また、日本の社会経済システムの抜本的な見直しとして「公益法人制度改革」が進められているなか、協会においても将来の組織のあり方について検討がなされています。

このような変革期に生きる私たち中小企業診断士は、自身の所属組織や仕事の領域でも、変化への対応が必要であると考えます。

1. 中小企業診断士の活躍の場を広げるために

これまで私たち香川県支部の会員は、公的な商工指導機関等から優先的に相談助言・診断業務を受託する機会に恵まれてきました。他の都道府県においても、地方支部で活躍する多くの診断士は、公的な商工指導機関等からの委託業務に重きを置かざるを得ない状況にあるようです。

しかしながら県内中小企業の中には、公的機関に頼らず身銭を切って、自社の経営課題解決のために経営コンサルタントへ依頼するケースがあります。しかも年々、こうした民間対民間のビジネスは増加しているといつてよいでしょう。

残念ながら現在このようなビジネスは、東京・大阪をはじめとする都市部のコンサルティング会社等に圧倒されている感があります。こういう状況に対抗するため、支部として何らかの対策を講じる必要性と危機感を常々抱いております。

さらに「公益法人制度改革」が課題となっている昨今、支部単位での基盤強化と会員の共益性の観点から、収益性の高い事業に注力していくことが必要になってきています。

つまり今後は、民間対民間ビジネスの市場に、診断士がその活躍の場を見出し拡大していくべきといえるのではないのでしょうか。

2. 中小企業診断士のコンピテンシーモデル

対策を挙げるならば、まずは診断士一人ひとりが専門性に磨きをかけ、その分野におけるエキスパートとして積極的な営業を行う力を身につけることが考えられます。そしてその営業スタイルは、御用聞き営業ではなく、問題解決提案型営業であることが重要です。

一方、県内中小企業といっても抱える経営課題は多岐にわたるため、診断士一人では解決できないケースも出てきます。そういった場合を想定して税理士・弁護士等の有資格者とのネットワークを構築し、彼らの力を借りると同時にコーディネートしていく能力も必要と思われれます。

これらを診断士のコンピテンシーモデルのひとつとしてまとめるならば、経営全般に精通するとともに得意とする分野での専門性を究めつつ、他の専門家を採配するプロデュース能力やディレクション能力をもつことだといえます。

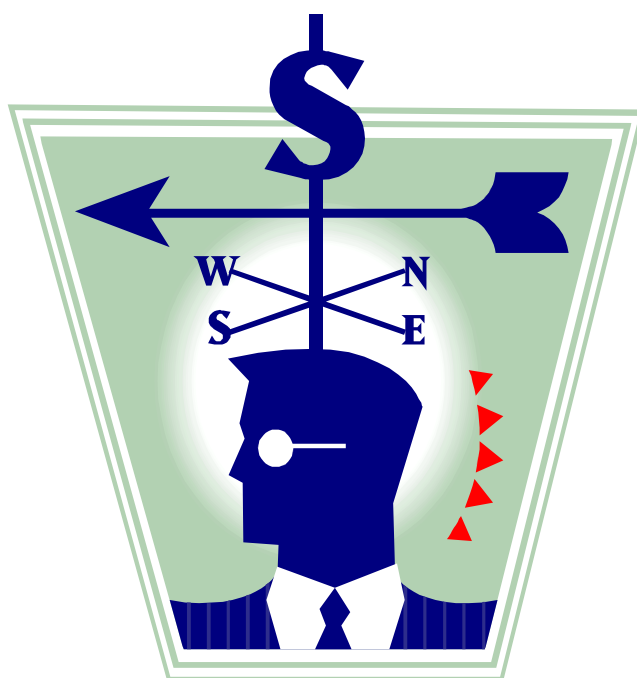
こうした能力をもった診断士が多く現れ、組織化された支部になるならば、変革期においても会員の共益性が図られ、支部会員の増加も見込まれるものと考えます。

以上のような意味も含め、皆さまのご研鑽の一助となるような研修等を今年度も実施す

REGISTERD MANAGEMENT CONSURUTANT REPORT

る所存ですので、よりいっそう支部の諸活動にご参加いただくようお願いいたします。

末筆になりましたが皆さま方のますますのご健勝と、さらなるご活躍を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



日立ITソリューションフェア 2008

～ 無料経営相談会報告～

板原 努

日立グループ主催の「日立 ITソリューションフェア 2008」が、8月1日（金）サンメッセ香川で開催されました。フロアは、「グリーンITゾーン」「最新ソリューションゾーン」「セキュリティゾーン」「内部統制ゾーン」の4つのゾーン（計47ブース）と屋外展示（マルチキャンペーンカー）で構成されておりました。問題解決という意味では、診断士の業務とも共通するものがあるように感じられました。そのうち「内部統制ゾーン」の一角に於いて中小企業診断協会香川県支部による無料経営相談を実施しました。当支部からは、川上実理事と私の2名が担当しました。

また、当日は岡野工業（株）の代表取締役である岡野雅行氏の「不可能を可能にする経営哲学」と題した特別講演をはじめセミナーには、当支部の岩倉雅敏理事が「中堅・中小企業の内部統制実践セミナー」と題して講師をされ午前・午後合わせて69名の方が受講されました。

香川県における当日の来場者数は、約600名ということです。勿論、企業関係者ということとは言うまでもありません。中でも「セキュリティゾーン」には多くの来場者が訪れていたようです。中小企業診断協会香川県支部の無料経営相談コーナーには、当日6名の経営者から相談がありました。その他、診断士について興味を持たれた方や協力会社の方々との情報交換等もあり、大変有意義に幕を閉じました。

今回のような民間企業のイベントの「場」に積極的かつ継続的に参加していくことは、中小企業診断士が民間の経営コンサルタントとしてビジネスの裾野を広げ活躍の「場」を見い出していくためにも重要であり、さらには、中小企業診断士及び診断協会の認知度向上のためにも必要であると思います。



8 / 9 第 2 回支部研修 報告

笠居 昭司

8月9日実施された講演において聴講者は皆一様に感動を得ると同時に何かを感じ取ったようで、充実した研修会であった。なお講演要旨は以下の通りである。

1．創業至る経緯

独立心が旺盛だった現社長の創業に至るまでの経緯（最初に入社した証券会社の退職、住宅業界への転身と地元工務店での経験、そして退社後の現会社を設立まで）が説明された。

2．社長の経営哲学

社長の経営に関する方針を総括すると次の点に集約されると考えられた。

- (1) 数字は大事であるが、細部まで見ていこうとしても無理。損益のポイントとなるところだけをしっかりとおさえ、かつ常に把握しておくことが大事。
- (2) 損益分岐点を意識し、絶対に達成しなければならない数字を把握したうえで、最高の数字をイメージ（夢）することでモチベーションが高まり、エネルギーとなる。
- (3) 急激な環境変化等には柔軟に計画・目標を修正し何が何でも赤字を回避すること。
- (4) 斬新な発想は高い目標等から生まれるが、高い位置からの発想を現実的に転換することで無駄が減少し、大切なことを意識できるようになる。
- (5) 値引きは利益へ及ぼすダメージの大きい。値引きをしないでも良いようにすることが重要。



8 / 3 0 理論政策更新研修 報告

～平成 20 年度理論政策更新研修を終わって～

池田 一昌

5ヶ月前に実施した平成20年度の理論政策更新研修のテキスト、レジメを机の上に広げてみると真夏日が1ヶ月以上も続いた中で開催した8月30日の研修を思い出します。3月31日の理事会で開催日時、開催場所の決定、本部より提示のあったテーマから「地域資源活用について」、「中小企業の知的資産経営」の2つを選び講師への依頼を決めました。

4月には講師の了解もいただき研修への準備が始まりました。

中小企業政策については例年のように四国経済産業局産業部 中小企業課課長田丸善朗様をお願いする事にしました。

地域資源活用については、まさしくそのお仕事をやっておられる、独立行政法人中小企業基盤整備機構四国、地域資源活用支援事務局 統括プロジェクトマネージャー三井文博様をお願いしました。

中小企業の知的資産経営については、当支部理事の川上様に講師をお願いしました。

7月には県内の診断士に理論政策更新研修開催の案内を発送し、申込者に受講表の発送等の事務が行われました。

開催日の5日前頃には各講師よりレジメが送られてきて、参加人数分のコピーなどが行われました。

開催日当日は定刻までに62名の参加者が全員そろいました。

山下支部長の挨拶のあと、テーマに沿って各講師よりいろいろな事例を織り込んだ詳しい研修が行われました。

全員真面目に聴講し、提出いただいたアンケートをみても事例が豊富で大変参考になったという意見が多数ありました。

実務に携わっている講師をお願いして成功だったと思います。

4時間の研修が終わって、香川県支部としては初めての企画でしたが場所を変えて特別交流会（懇親会）を開催しました。

診断士が年1回集まる機会は理論政策更新研修しかありませんので、中小企業診断協会に入会していない診断士の方々と会員診断士との情報交換は勿論、同じ資格を有する仲間をお互いに知る機会になればとの思いから企画しました。

17名の参加者があり大いに盛り上がりました。

以上が今年の理論政策更新の報告です。

無事滞りなく終える事ができたのは、会場手配、案内状の発行、受講表発送、テキストレジメの印刷等をやっていたいただいた事務局の八木様のおかげです。

ありがとうございました。

10 / 15 岡山・香川支部合同研修会 報告

～ 中小企業診断協会岡山・香川県支部合同研修会の開催に参加して～

梅澤 秀樹

去る10月15日(水) 標記研修会を高松において開催いたしました。今回は二部構成で、第一部はサンポート高松シンボルタワー17階会議室において、ジェイアール四国バス株式会社代表取締役社長の十川道信様を講師として、「本四架橋がもたらした公共交通機関の変化」と題した講話をいただき、第二部は株式会社ヒューテック本社において、工場見学および説明を受けたあと、「わが人生(第二の創業)」と題して、代表取締役社長の平田喜一郎様を講師として講話をいただきました。

第一部が終了した後、秋晴れの下、シンボルタワーからジェイアール四国バスに乗車し、第二部の開催される株式会社ヒューテック本社へと向かいました。

以下に講話をいただいた感想を記載いたしました。

第一部

ジェイアール四国バス株式会社 代表取締役社長 十川道信様

バス路線が鉄道網を補完しながら発達した様子を日本地図を基に詳しく説明いただきました。それはあたかも、人間の骨格と血管のような印象を持ちました。

さすがに十川社長様は鉄道の技術者ご出身ということで、振り子式と言う機関車躯体のお話もあり、その振り子式もコンピュータ制御に変わったことなど興味深くお聞きしました。その変化の過程には、国鉄からJRへという体制上の変化が大きく影響していたようです。

四国の各種交通手段の旅客状況の説明を聞くにつけ、時代という大きな流れの変化を感じました。この中で、特に高速バスの成長が著しいことには驚きました。しかし、それはお客様を待っているという姿勢ではなく、「私たちはお客様が喜ぶことを実践し、日本一のバス会社を目指して会社の発展に努めます。」という理念の下、言葉遣いに気を配り、料金に見合った最高のサービスを提供したり、バス乗車券を駅売りから電話やインターネットへと軸足を変えたり、高速道路沿いに駐車場を設置し、使いやすい高速バスというものへの考え方を変化させ、次々に新しいアイデアを展開させてこられた十川社長様の発想力があってこそと感じました。

第二部

株式会社ヒューテック 代表取締役社長 平田喜一郎様

シート状フィルムなどのキズや印刷のズレなどを検査する光学的検査装置の受注生産を主要な事業とされているヒューテック様で、先ず驚いたのは工場を始めとした会社全体

の清潔感でした。綺麗に整理整頓され、塵一つ無いような清潔感が有りました。

社員の方に丁寧に説明をいただき、工場見学をさせていただいた後、平田社長様の講話をいただきました。

そもそもは鉄道車両であるフランジの磨耗防止用の特殊油脂を製造されていたのですが、車輪という関係から工場内クレーンの車輪の磨耗防止油脂への展開、クレーン操作の正確性を追究する経緯での位置確認投光器の製作、その光の関係から現在のCCDを利用した光学的検査装置の製作へと発展されたそうです。お話を聞くに付け、企業のダイナミックな成長過程を目の当たりに感じました。

社長様はお若いころ、あるセミナーで商品のライフサイクルという話をお聞きになり、企業には新製品が必要であると言うことを信念として持たれ、様々な困難を乗り越えてこられました。

「チャンスはいたるところにあるが、それが見えないだけである。困って本気で考えればそれらが見えてくる。」ともお話されました。

「成長企業はリスクがグロスであり、勘定あって銭足らずということがしばしば発生する。一般的には経営者は財務は良くわからない、担当の経理マンとしては、ただ言われたことだけやって改善策をあまり言わないようだ会社はだめになる。」ともお話されていました。

その他、管理会計の重要性をご説明いただいた後で、経営理念手帳という全社員の意識を結集された、経営についての語録と解説集を見せていただきました。手帳を見て、社員全員の取り組みの熱意が感ぜられました。

両社長の講話をいただいて感じたことは、成功されている方々は直面した様々な困難に対して本気で取り組み、アイデアを次々に現実化し困難を乗り越えてこられるとともに、その向こうにあり、いずれ現実化してくるであろう問題についても対応策を考えておられるということでした。

我々中小企業診断士のために貴重なお時間を割いてご講義いただいた両社長に心から感謝いたしますとともに、その内容を十分に理解し、我々が接しています中小企業の方々へもお伝えしていきたいと考えております。本当に有難うございました。

岡山県支部の先生方ご参加、有難うございました。内容の濃い研修会であったと思いません。これからも宜しくお願い申し上げます。



10 / 17 四国ブロック事務連絡会議

～平成20年度（社）中小企業診断協会四国地区ブロック会議について～

村上 潔

社団法人中小企業診断協会の四国ブロック事務連絡会議が、本部から水元明則専務理事と新井信裕公益法人制度改革対応検討委員会委員長と松尾総務課長の3名お迎えして開催されました。四国四県の各県支部から、支部長及び副支部長の各2名、当支部から山下支部長と私の2名が参加致しました。

まず水元専務理事から、今回の公益法人の当協会の一般社団法人への移行について、今後のタイムスケジュールと諸課題についての説明がありました。また松尾総務課長からそれに伴い、本部と支部とが連結決算となるために、「新公益法人会計基準」に即した会計処理による決算書類の共通化を図る必要があり、その内容の説明と、今後の経理担当者の研修会を実施する旨の説明がありました。また新井委員長からは、今回の公益法人改革の対応について、当協会が一般社団法人を選択し理事会に中間報告し承認された経緯について説明がありました。概略の内容とタイムスケジュールについては下記の通りです。

その後各県支部の活動状況の報告があり、各県支部の現在実施している調査研究事業・広報・支部研修事業・診断実務従事事業等についての報告がありました。各県支部とも診断実務従事事業については、取組ができていない状況で、今後の各県支部共通の課題事項でした。

記

- | | |
|---------------|---|
| 1・移行時期 | 平成21年度に総会において承認されて、平成22年4月から一般法人へ移行することとなりました。 |
| 2・公益目的財産額確定 | 平成21年3月31日の決算における純資産額 |
| 3・公益目的財産額の処理 | 一定期間（今後決定）内において公益目的のみに使用して、最終的に0にする。但し各支部の財産額は支部にて使用・処理することとなりました。 |
| 4・公益目的事業（予定案） | （1）調査研究事業（内容は改善する余地あり）
（2）窓口相談事業（企業内診断士も参加可）
（3）中小企業経営者セミナー事業 |



11 / 15 第3回支部研修 報告

～平成20年度第三回支部会員研修報告～

村上 潔

平成20年11月15日(土) 高松市生涯学習センターにおいて、株式会社日本政策金融公庫の高松支店長兼中小事業統括の久恒裕彦氏をお迎えして、平成20年度第三回の支部研修が実施されました。

支部会員7名、その他一般参加者4名の合計11名の参加がありました。今回は10月1日に政府系金融機関の中小企業金融公庫・国民生活金融公庫・農林漁業金融公庫・国際協力銀行の4機関が統合されて株式会社日本政策金融公庫が誕生したのを受けて、その初代支店長を迎えて講話をしていただきました。

内容としては、テーマ「株式会社日本政策金融公庫と中小企業金融」と題して話をさせていただきました。まず支店長の経歴の紹介があり、最初の赴任地の札幌を皮切りに高松支店が都合10拠点目とのことでした。

最初は、最近の経済情勢について、国内の長期経営環境について説明があり、香川県中小企業動向調査結果(中小企業編)を踏まえて、香川県の経済状況を解かり易く説明されました。次に、その中で誕生した株式会社日本政策金融公庫と、その役割について、

会社案内 各事業の融資の案内 高松支店の概要について話をされました。最後に、政策支援策を活用して発展・成長を目指そうということで、現在の中小企業に対する、各種の支援策の内容と実績等について、説明がありました。

今回は、参加者は少ない状況でしたが、講師の久恒支店長より解かり易く丁寧に説明していただきました。そして講話の内容も充実しており、有意義な研修となりました。



11/21 百十四銀行 無料経営相談会

岩倉 正敏

今回株式会社百十四銀行様の130周年行事の一環として、当支部より診断士2名を派遣し無料経営相談会を開催した。

開催日時及び会場

平成20年11月21日(金)・9:00～17:00、百十四銀行本店営業部3階 特設会場

相談企業及び相談テーマ

1. タクシー会社：事業承継並びに持株会社化について
2. 眼鏡小売店：業績改善
3. 建設機器リース：中期計画策定
4. ラケットショップ：中期計画及び会員数増加
5. 設計コンサル：業績悪化に伴う業績拡大
6. 化学製品製造：中期計画及び資金調達

企業の反応

各企業2時間程度の短時間での相談であったが、概ね好評であった。今回の相談会では、事前準備に時間をかけたため、当日の相談会もスムーズに運営できたと感じている。

主催者の反応

山下支部長が、後日開催御礼のご訪問を行ってくださった際、今後の定期開催のお話をいただけた。企業内診断士の同席(実務研修のポイント取得)も含め現在交渉を行っており、正式決定後は支部会員の皆様にご報告したい。

相談会を実施して

地元中小企業の抱える様々な課題に、短時間で的確な対応ができる為には、日々のコンサルティング現場での自己研鑽が不可欠である。今回の様な相談会を経験することは、私たち診断士にとって貴重な経験であり、今後は支部会員の皆様の積極的な参加を願いたい。また、地元金融機関をはじめ多くの企業・支援機関等とのかかわりを積極的に進めていくことで、診断協会所属診断士の能力向上と診断協会の地位向上に努めたい。



11 / 22 ~ 24 経営コンサルタント養成講座

～ 経営コンサルタント養成講座に参加して～

山下 英志

平成 20 年 11 月 22 日（土）～ 24 日（月）、休暇村讃岐五色台において 2 泊 3 日の合宿研修が開催されました。本講座の目的は「プロの経営コンサルタントを目指すための考え方とスキルの習得」であり、参加者は企業内診断士やアリーステージの診断士、社会保険労務士の先生方、また現在中小企業診断士を目指している方々など、オブザーバー・講師含めて総勢 14 名が参加しました。受講生の視点から今回の研修を振り返りたいと思います。

1 日目：11 月 22 日（土） 10:00～18:00

1 日目はハーモニーコンサルティングの藤川先生から「経営コンサルタントに求められる考え方」というテーマでお話いただきました。前半はコンサルタントとしての心構えとして、高い倫理観を自ら設定し自己革新を常態とする生き方が求められ、結果がすべての非常に厳しい世界であるということ、一方で社会的価値が高く、高い達成感を得られること、すべては自己成長に繋がることといったコンサルタントの意義についてもお話いただきました。後半はコンサルタントの思考手順をマスターするため、事例演習を通して問題を構造化する思考手順を受講生全員でグループワーク形式で討論・発表しました。

2 日目：11 月 23 日（日） 8:30～12:00

2 日目午前は当支部長の山下先生からコンサルタントとして経営者に接する際、相手と信頼関係を築くために必要となるペーシングとリーディングについてお話いただきました。特にペーシングについては、相手の動作を真似る、相手の行動を先読みするなど幾つかの演習を通して、ペーシングされることで相手に心地よい感情を持つ、といった普段気付くことのない心理面の体験を得ることができました。また「ハーマンモデル」と呼ばれる人間の思考スタイルを分類するモデルを用い、自らの思考スタイルを認識するとともに、相手の思考スタイルによってコミュニケーション方法を変えるとといった高度なスキルにも言及されました。

2 日目：11 月 23 日（日） 13:00～18:00

2 日目午後は当支部理事の岩倉先生から経営コンサルタントとして独立するに際し、何を売るのか、どうやって業績を作るのか、といった具体的かつ極めて実践的な内容のお話をいただきました。前半は見込顧客をいかにして獲得するか、そのためにセミナーや経営相談を活用し各種提案書に次につながるテーマを盛り込む、顧客訪問時は必ずお土産（例えば営業力チェックリストなど）を持参するなど、先生が作成された資料や事例を交えて臨場感のあるお話をいただきました。後半は企業の経営相談会議事録をベースにして、実際に企画書を作成・発表する演習を行いました。ベースの資料が架空の企業ではなくかつ経営状況が非常に厳しい企業への提案という、現場でしか体験できない貴重な経験を得ることができました。

REGISTERD MANAGEMENT CONSURUTANT REPORT

3日目：11月24日（月） 8:30～16:00

3日目はカタリスト研究所の近藤先生から「プロ講師として身につけておくべき基礎スキル」というテーマでお話いただきました。突然の自己紹介に始まり、その後3分間スピーチを全員で行った後、先生から個別に修正すべき点をご指摘いただきました。受講生全員、普段まったく気付いていない癖を認識することができ、また人前で話すときに緊張する原因と対策など実践的な内容をお聞きし、非常に参考になったと思います。特に聞き手には心理的な特性が4つあり、理解してもらうために繰り返す、常に目配せし聞き手の状況に配慮する、心を引き戻す、といったお話が印象に残りました。

合宿形式の研修は初めての参加でしたが、日中の講義だけでなく夜の部においても日ごろお話しする機会の少ない先生方や受講生の方々と時間を共有することができ、人的ネットワークの形成という面でも参加できたことを光栄に思います。最後になりましたが本講座を企画していただいた当支部の先生方、講師の方々に受講生を代表して心から御礼申し上げます。



会員だより

私と高松

梅澤 秀樹

今では讃岐弁もある程度使いこなすようになりましたが、やはりイントネーションが微妙に違うせいか、生粋の讃岐人でないことがすぐに分かってしまいます。(残念！)

実は、私の生まれは山口県で、小学生4年生から高校までは広島に住んでおりました。

大学受験までは瀬戸内海を渡って、四国に来たこともなかったのですが、高校の先生に進められて初めて来た高松は連絡船に乗ったこともあって、新天地に来たような感じでした。

学生時代は剣道部に属し、ライオンどおりを学生服に高下駄を履いて歩いたものです。

当時の商店街はとても活気があり、陽光を受け気持ちも晴れ晴れとしていたことを昨日のことにように思い出します。

高松には栗林公園、屋島、金毘羅さん、弘法大師様の善通寺、四国88か寺など全国に誇れる観光名所が沢山あって、楽しく住みやすいところであると実感しています。

特に瀬戸内海の夕焼けは最高です。

一旦は、県外に就職した私ですが、また縁あって高松勤務を始め20年が経ちました。

人からは若く見えるようですが、昨年12月31日を以って55歳となりました。

55歳を一つの区切りと考えながら、純粹の讃岐っ子である奥さんに讃岐の方言の正しいイントネーションを教えてもらいつつ、また新しい気持ちで頑張りたいと考えています。



「雑煮」あれこれ

柏原 俊治

一年の初めは見慣れた風景も人のこころも、あらたまった清新な感じをうけます。家庭では門松、鏡餅を飾り、初詣、年賀、お年玉、そして雑煮など、家族そろって新年を祝います。近年、伝統的な行事は稀薄になってきていますが、新年の行事は各地の風習と家伝が根強く引き継がれています。

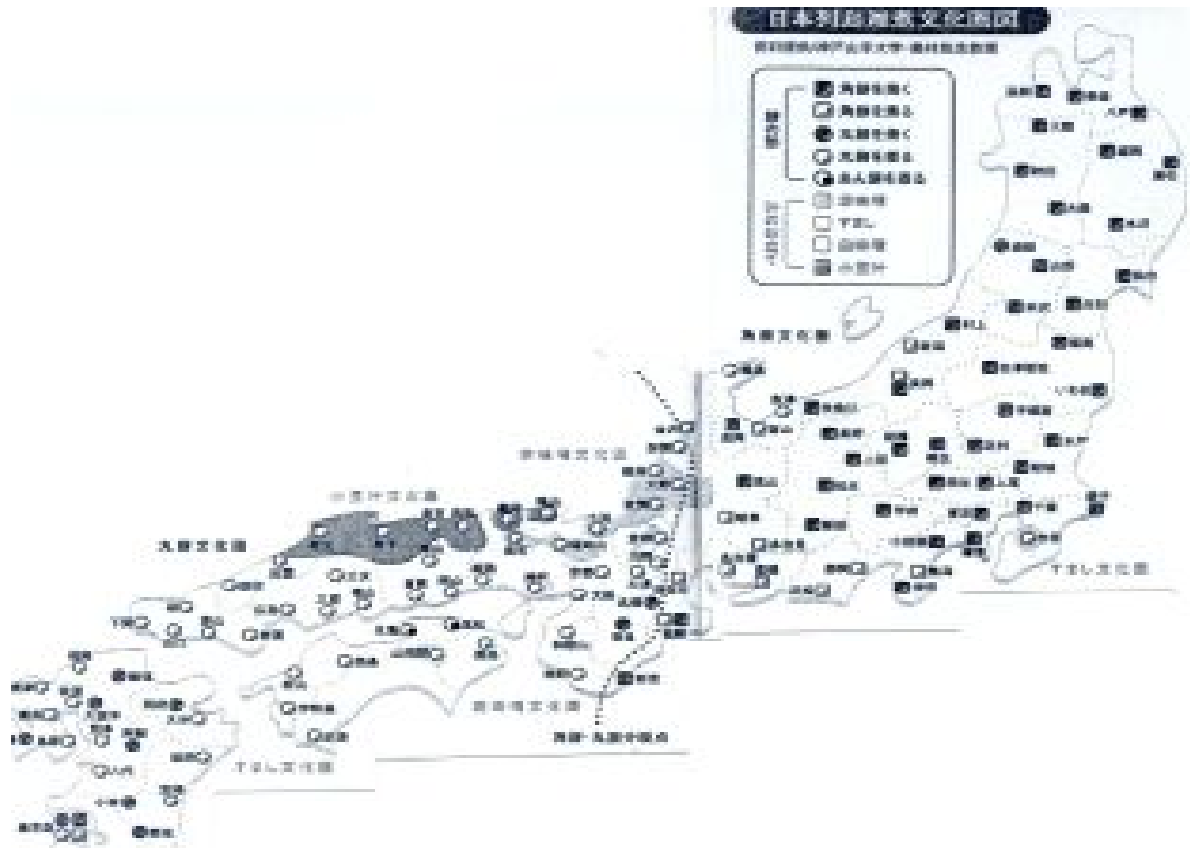
新年祝いの料理として大切なものの一つに、雑煮があります。辞書では、「餅を野菜・鳥肉・魚肉などとともに仕立てた味噌汁または清汁。新年の祝賀に食する。」ものとされています。わが家の雑煮は、かつおだしの白味噌仕立てに大根を入れ、そしてつぶあん入りの丸餅を煮て、青のりと花かつおをのせて祝います。かつては、子どもたちは、「歳の数だけ食べる」と競って食べたものです。今、皆様のご家庭では、どのように雑煮を祝っているのでしょうか。

雑煮のルーツは、室町時代にお祝いの席や将軍がみえたときの酒肴として供されたものが始まりとされ、600年の歴史があります。正月祝いとしての雑煮は、おめでたい食べ物である「もち(望)」を年神様に供えた後、地元の産物と一緒に鍋で煮て食べる儀式用とされていました。この風習が、江戸時代中期になって全国各地に伝わりました。そして、庶民の間でも正月祝いとして広がり、明治以降には北海道、沖縄にも伝播しました。

今日、雑煮文化は各地の風土、家々の格式により多様なものとなり、郷土色豊かな正月料理として日本の食文化の象徴ともなっています。使う餅は関が原あたりを境として、東日本は江戸文化の新風の四角い切り餅の「角餅」、西日本は京都文化の古風な丸餅に二分されています。また、料理は、餅を「焼いて使う」又は「煮て使う」の2つの方法が東西に混在しています。さらに、汁の仕立て方には、「すまし圏」、「赤味噌圏」、「白味噌圏」、そして「小豆圏」の4つの方法があります。

そして、「あん入り」の餅を使うのは、全国広しといえど香川県のみです。とはいえ、県内でも、あん入り餅を使わない所もあります。県内の雑煮の祝い方には、「白味噌あん入り丸餅」(さぬき市、高松市近辺)、「白味噌塩あん入り丸餅」(善通寺市近辺)、「赤味噌塩あん入り丸餅」(三木町、三豊市近辺)、「白味噌丸餅」(土庄町、東かがわ市近辺)、「赤味噌丸餅」(小豆島町近辺)、「すまし丸餅」(琴平町、まんのう町近辺)の6種類があります。しかし、地域(丸亀市、観音寺市、坂出市近辺)によっては、これらが混在しています。また、同じ地域においても、「隣雑煮」といわれるように家ごとに異なるのは、雑煮の伝統の奥深さを表わしています。

せめて正月三が日は、雑煮と正月膳に舌鼓しながら家族とともに団らんのときを過ごし、今年一年の思いを語り合いたいと願っています。



新入会員自己紹介



四宮 健（しのみや たけし）

2008年12月に香川県支部に入会しました四宮健と申します。簡単ではありますが、自己紹介をさせていただきます。

私は、1973年に香川県高松市で生まれました。同志社大学経済学部を卒業後、株式会社百十四銀行（本社：香川県高松市）へ入行しました。

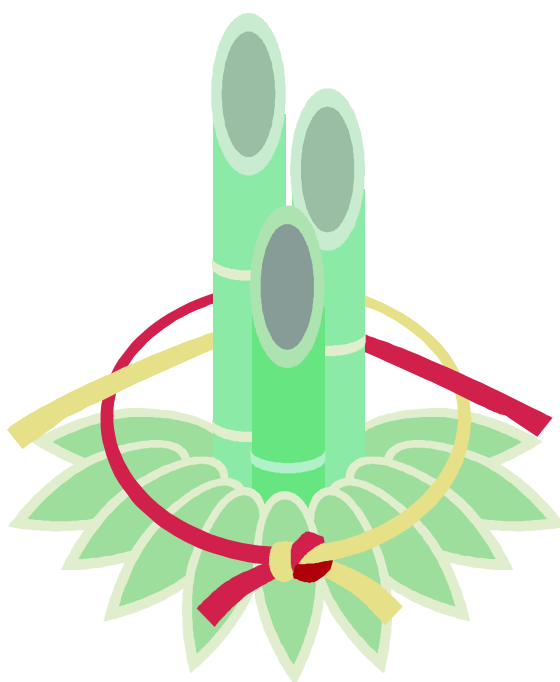
弊行は、地元香川のある瀬戸内海圏内を中心に1都1府9県に営業基盤である店舗ネットワークを持つ広域地方銀行です。今年2008年は創業してからちょうど130周年にあたり、今まで信頼していただいたお客様への様々な感謝イベントを行っております。「地域社会への貢献」と「健全経営」の経営理念のもと、お客様とのさらなる共存共栄を図るためにお客様の多様なニーズや課題を分析し、個々の取引先に合わせた最適な問題解決策を迅速に提案することを心掛けています。

入行してから、地元香川の坂出東部支店に配属となり、多度津支店を経たのちに研修生として米国大学院にて2年間MBA（経営学修士）課程でマーケティングとファイナンスを学びました。帰国後は、営業統括部に配属となり、現在市場国際部に所属しております。

営業店においては、おもに得意先担当者として地域企業の金融面でのサポートを行いました。また、営業統括部においては、中小企業担当者として中小企業向け商品開発や各種中小企業支援施策、事業承継、M&Aの推進を、地域密着型金融の担当者としては販路開拓等のビジネスマッチングや経営革新、PEの推進に取り組みました。

中小企業診断士資格取得のきっかけは、営業統括部時代に中小企業かつ地域密着型金融の担当者として、中小企業の経営支援に携わっていくうちに、中小企業診断士は中小企業が抱える様々な経営上の課題により身近な立場で携わることができ、かつ弊行が地域密着型の金融機関を目指す上での礎となる資格であると感じたことです。

中小企業診断士を取得した今、企業内中小企業診断士として、地元中小企業への支援と地域社会への貢献を果たしていきたいと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。



**診断かがわ 第52号(新年号)
平成21年1月9日発行**

社団法人中小企業診断協会香川県支部

〒761-0301 香川県高松市林町 2217 番地 15 香川産業頭脳化センター402号

TEL 087-840-0370 FAX 087-840-0321

ホームページ：<http://www.shindan-kagawa.org/>

メールアドレス：mail1@shindan-kagawa.org

発行人	支部長	山下	益明
編集人	広報部	梅澤	秀樹
"	"	岩倉	正敏